

飼養衛生管理マニュアル（農場名： ）

（1）農場における防疫のための更衣

衣服・靴の着用



衣服・靴の脱衣



- ①手指の洗浄・消毒後、更衣場所に入場する。
- ②外靴を脱ぐ。
- ③スノコの上で外服を脱ぎ、所定の場所に置く。
- ④専用衣服を着る。
- ⑤専用靴を履く。
- ⑥手袋をする。

- ①靴を脱ぎ、ブラシで洗浄後、消毒する。
- ②衣服を脱ぎ、洗濯用カゴに入れる。
- ③手袋を脱ぎ、ゴミ箱に捨てる。
- ④手指を洗浄後、アルコール消毒する。

○狩猟をする場合、狩猟後は、シャワー等で全身洗浄、新しい衣服・靴に交換してから農場に入場する。狩猟に使う器具・機材は農場に持込まない。

（2）物品の取扱い

＜措置の内容＞

○他農場で使用した物品や海外で使用した衣服等は、持ち込まない。

○やむを得ず、持ち込む場合は煮沸消毒を行う。

煮沸消毒

対象：被服、毛布、毛、器具、布製の飼料袋 等

- ①沸騰水中等で加熱する。作用時間 80℃-5分
- ②水滴をタオルで拭き取る。
- ③自然乾燥させる。



（3）野生動物の衛生管理区域内への侵入防止

＜措置の内容＞

○給餌__時間後、通路にこぼれた餌を掃除する。

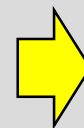
○毎週__曜日、牧柵の破損がないか、さらに野生動物の侵入がないか確認する。

○毎週__曜日、農場周囲を確認し、必要に応じ除草する。

○毎月1日に、農場内を整理・整頓する。



飼料保管庫



○毎週__曜日、ネズミの侵入跡と粘着シートを確認し、ネズミの侵入状況をチェック表に記録する。

侵入跡には、粘着シートや罠を設置する。

○死亡した家畜を発見した場合、異常の有無を確認し、野生動物が寄りつかないようにブルーシートで覆う。



特定症状*を確認した場合

*発熱、食欲不振、泡状よだれ、口・乳房に水疱

中央家畜保健衛生所に直ちに通報

TEL: 019-688-4111



毎月1日は「消毒・点検の日」

(4) 手指、衣服、靴、車両、施設等の洗浄及び消毒に関する具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間等

<措置の内容>

以下のとおり、消毒の対象物に応じた方法で消毒する。

靴の洗浄・消毒



長靴は念入りに洗浄する。



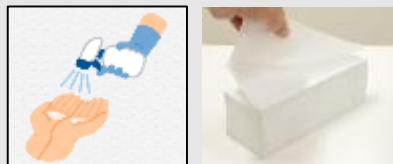
溝の汚れも落とす。



消毒槽に漬ける。

- 消毒場所: 畜舎出入口
- 消毒薬の種類: 逆性石けん
- 希釈倍率: 500倍
- 乾燥させる。
天日干し、一晩

手指の洗浄・消毒



手洗い用スプレーを吹きかけ、ペーパータオルで拭く。



手全体がシットリする程度消毒薬を吹きかける。



消毒薬を揉み込みように手のひら・甲・指の間・手首を消毒する。

- 消毒場所:
 - ① 衛生管理区域境界
 - ② 畜舎境界
- 消毒薬の種類: アルコール

衣服の洗浄・消毒



大まかな汚れを落とす。



消毒薬に一晩浸漬する。



洗濯する

- 消毒場所: 畜舎出入口
- 消毒薬の種類: 逆性石けん
- 希釈倍率: 500倍
- 乾燥させる。
天日干し、一晩

車両の洗浄・消毒



車両のタイヤ周りを入念に消毒する。



フロアマットは交換、ペダルは消毒する。

- 消毒場所: 衛生管理区域境界
- 消毒薬の種類: 逆性石けん
- 希釈倍率: 500倍

石灰帯の設置



- 消毒場所: ① 衛生管理区域境界
② 畜舎境界
- 消毒薬の種類: 消石灰 (週1回)
- 手袋、防護服・メガネ・マスク着用

【注意事項】消毒前に徹底的に汚物を除去する、十分量の薬液を用いて隅々まで浸透させる、消毒薬作成手順書及び作業日誌を設置し、記録する。

(5) 畜舎の消毒

牛舎全体の洗浄・消毒(哺乳牛以外)

○ 2週間に1回、次の手順で行う。

(1) 天候の良い日に、牛を外に出し、排水路を整え、牛舎隅々の糞や汚れをかき取って除去する。

(2) 電気系統をビニール等で防水する。

(3) 牛床、壁、通路、天井を十分水洗後、デッキブラシ等によくこするか、高圧温水洗浄機で汚れを落とす。

(4) 飼槽、ウォーターカップ、牛床、壁、通路等牛舎全体を、消毒する。※ 適正濃度に調整し、十分湿る量(1~2ℓ/㎡)を散布・噴霧する。

(5) 牛舎を乾燥させ、敷料を配置する。

(6) 牛体や乳房の汚れているものは、牛舎に誘導する前に、舎外で水洗する。

牛舎全体の洗浄・消毒(年1~2回、分娩房は牛の入替都度)

○ 牛舎全体または、分娩房の石灰乳塗布を年1~2回、次の手順で行う。

(1) 牛を外に出し、牛舎を水洗・消毒する。十分湿る量(1~2ℓ/㎡)を散布・噴霧する。

(2) 水2に対しドロマイト石灰1で混合して「石灰乳」に調整する。

※ 石灰乳は強アルカリ性のため、化学火傷に注意する。

(3) 飼槽、ウォーターカップをビニール等で覆い、天井、壁、柱、スタンションなどにブラシ、塗布機(市販)を用いて、(2)で作成した石灰乳を塗布する。

(4) 床面、パドックに石灰乳を散布する(石灰として400~500g/㎡)。

(5) 牛舎を乾燥させる。

(6) 生石灰から消石灰に調整した直後は、牛の皮膚の弱い部分に直接接触すると、水疱ができることがあるので、敷料を十分敷く。

(7) 牛体や乳房の汚れているものは、牛舎に誘導する前に、舎外で水洗する

○ 消毒場所: 牛舎

○ 消毒薬の種類及び希釈倍率(例)

① 通常時: 逆性石けん液500倍

② 子牛の下痢(ウイルス)対策: 複合塩素製剤500倍

③ コクシジウム対策: オルソ剤200倍

【注意事項】消毒前に徹底的に汚物を除去する、十分量の薬液を用いて隅々まで浸透させる、消毒薬作成手順書及び作業日誌を設置し、記録する。

洗浄



高温高圧洗浄機を用いて
こびり付いた糞を洗い流す

ポイント

穴・目地・壁の立ち上がり部分に糞を残さない

石灰乳の作成



バケツにドロマイト石灰の粉を入れ、水で溶かして石灰乳にします。固まらない内に塗りきれぬ量を溶かしましょう。

ポイント

目安は、
ドロマイト石灰: 水 = 1 : 2

石灰乳の塗布



ポイント

薄くぬること(厚塗りは剥がれて効果を失いやすい)
穴・目地の内側、立ち上がり部分にもぬること